# 会　報
No. 21

2024 年 12 月 21 日発行

発行･編集　日本学習社会学会事務局



*Japanese Association for the Study of Learning Society*

日本学習社会学会

事務局　〒564-8680　大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西大学　文学部　総合人文学科　教育文化専修気付
（事務局長　田中　潤一研究室）
学会 HP:　http://learning-society.net/


会報第 21 号をお届けします。本号では、第 21 回大会の課題研究の報告、公開シンポジウム（会場校企画）の報告、理事会および総会の報告、年報第 21 号の自由研究論文の募集などについてお知らせいたします。会員の皆様には引き続き本学会の発展のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 第 21 回大会を終えて　第 21 回大会実行委員会委員長　宮村 裕子

2024（令和 6）年 9 月 14 日（土）、15 日（日）の両日にわたり、第 21 回大会が畿央大学において開催されました。奈良県で本学会が開催されるのは初めてのことで、会場の規模やアクセス面でも心配をしましたが、おかげさまで全国より合計 83 名（一般会員 70 名、院生・学生会員 8 名、臨時会員 5 名）の皆様にご参加いただくことができました。

自由研究発表では、合計 30 件（8 部会）の研究発表が行われました。そのうち、大会初日の午後に 10 件の研究発表が行われました。そして総会の後、公開シンポジウム「学校施設を基点とした学習社会の『共創』―社会教育としての学校開放の再定義―」が、奈良県教育委員会および畿央大学現代教育研究所の後援を受けて開催されました。連休初日の土曜日の夕方ということもありましたが、奈良県内の市町村教育委員会からも参加者がありました。まず、荻野亮吾会員からは学校施設開放・複合化をめぐる理論的な枠組み、橋田裕氏（文部科学省）からは学校体育施設を基点としたスポーツ機会の確保、薮内善史氏（天理市教育委員会）からは公民館と協働する取り組みによる学校施設の可能性について報告が行われました。その後、フロアも交えて活発な意見交換が行われました。

二日目は、午前に 2 件の課題研究が行われました。研究推進委員会企画の課題研究Ⅰ「学習社会基盤としての地域社会と学校教育　―『特別活動』における学習活動を軸として―」では、吉田尚史会員のコーディネートのもと、若園雄志郎会員、菱田隆昭会員からご報告をいただき、上野昌之会員を指定討論者として、課題の検討が行われました。また、国際交流委員会企画の課題研究Ⅱ「多様性の時代における教育への問い　―社会的に周縁に置かれた人々の声や視点から教育、社会を問い直すには」では、呉世蓮会員のコーディネートのもと、古田雄一会員、中村春菜会員、金侖貞氏（東京都立大学）からご報告をいただき、課題の検討が行われました。午後には、20 件の自由研究発表が行われ、各会場で活発な議論が交わされました。なお、ご事情により、うち 1 件が急遽オンライン発表となりました。

以上、本大会では、大会実行委員会としても不慣れなところ、非会員スタッフの力を借りながらの運営となりましたが、前年度大会校（釧路公立大学）や学会事務局（関西大学）、理事会の皆様方をはじめとして、多くの皆様から多大なるご助言をいただき、何とか 2 日間の日程を終えることができました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

*CONTENTS*


第 21 回大会を終えて …… 1
課題研究報告…… 2
公開シンポジウム報告…… 4
理事会報告…… 5
第 21 回総会報告…… 9
お知らせ…… 10
年報第 21 号の自由投稿論文の募集… 11
日本学習社会学会　学会賞の募集…… 13

# 課題研究Ⅰ報告

## 学習社会基盤としての地域社会と学校教育

### ―「特別活動」における学習活動を軸として―

【司会】
吉田 尚史 会員（福岡女学院大学）
【報告者】
報告1：若園 雄志郎 会員（宇都宮大学）
「特別活動にみる地域づくりと社会教育―栃木県の事例から―」
報告2：菱田 隆昭 会員（和洋女子大学）
「学習基盤としての地域と学校の連携―富山県五箇山地域の小規模高等学校の取り組みから―」
指定討論者：上野 昌之 会員（東京都立大学非常勤）

第21回研究大会における課題研究Ⅰでは「学習社会基盤としての地域社会と学校教育－「特別活動」における学習活動を軸として－」をテーマとして、9月15日（日）10:00～12:00の日程で行われた。

今大会の課題研究では、地域社会と学校教育活動との協働関係が学習社会の基盤となりうるものとの認識のもと、学習社会を捉える視点と課題を明確にすることを趣旨とした。

グローバル化や情報化の進展といった社会変化は、学習者個々人が、多様な社会的・文化的背景をもつ人々との関わりの中で協働を可能とできる資質・能力を育むことや、自己と他者を共に尊重し新たな価値を創造的に生み出す力を獲得することの重要性を強調することとなった。これらの人間像は、現行の学校教育カリキュラムにおいて、教科教育に限られず、すべての学習活動において育まれることが期待されるものであった。本課題研究のテーマである「特別活動」では、よりよい人間関係の形成や社会参画、自己実現の観点から、協働性や異質なものを認め合う土壌を育み、学習活動の基盤となる経験を得ることを内容とするものであり、このことから地域社会との協働における学びの在り方を通して学習社会の基盤を考察することを主題と2名の会員からの報告を得た。

第1報告者の若園雄志郎会員（宇都宮大学）からは「特別活動にみる地域づくりと社会教育－栃木県の事例から－」とのテーマから、地域づくりにおいて教科外活動としての特別活動と社会教育との理念的類似性を示し、具体的な取り組みとして栃木県内の中学校を事例に取り上げ、特別活動が社会教育とともに複雑な社会課題に主体的に取り組み、個人の成長や相互のつながりを形成することを目指していることを指摘するものであった。

第2報告者の菱田隆昭会員（和洋女子大学）の報告テーマは「学習基盤としての地域と学校の連携－富山県五箇山地域の小規模高等学校の取り組みから－」とされ、県内高校の再編統合が進む中で、小規模高等学校が地域との連携において地域をフィールドにした伝統文化の学びや調査・研究を推進し、体験活動やボランティア活動を通じて自己有用感や自己肯定感を育成することを掲げた学習活動が展開される事例から、地域から得られる知見を踏まえた地域貢献へと展開する双方向的な関係性における包括的な学習基盤の在り方を示すものであった。

2名の報告の後、指定討論者の上野昌之会員（東京都立大学非常勤）より、それぞれの報告内容に対して、地域の人々との対話の中で、生徒自身の自主性がどのように示されるのか、また地域への所属感、地域の一員としてのアイデンティティの形成へとどのように作用しているのかなど、本報告の趣旨に深く関わる「社会の形成者」としての学習者像と学習者としての「自己実現」の観点から論点が示された。指定討論者と各報告者との論議の後、フロアから報告内容や考察に関する質疑応答の発言が得られ議論を深める機会となった。末筆ながら報告と指定討論をいただいた3名の登壇者、議論を深めていただいた参加者の会員の皆様に感謝いたします。

報告：吉田 尚史（研究推進委員長）

# 課題研究Ⅱ報告

## 多様性の時代における教育への問い

### ―社会的に周縁に置かれた人々の声や視点から教育、社会を問い直すには―

【司会】
呉　世蓮　会員（関東学院大学）
【報告者】
報告１：古田　雄一　会員（筑波大学）
「周縁化されやすい子どもの声の包摂と学校教育の変革の試み
―アメリカの事例を手掛かりに―」
報告２：中村　春菜　会員（早稲田大学大学院）
「幼児教育段階における性の多様性教育について
―オーストラリアの実践から考える―」
報告３：金　侖貞　氏（東京都立大学・非会員）
「多様性時代における日本社会の課題とは
―マジョリティはどう変われるのか―」

報告 1、古田 雄一 会員（筑波大学・国際交流委員）「周縁化されやすい子どもの声の包摂と学校教育の変革の試み―アメリカの事例を手掛かりに―」では、学校教育の変革を目指すアメリカの実践事例の YARI と Project Soapbox が取り上げられた。子どもが自身や友人・家族、コミュニティにおける社会的問題に声をあげ、課題を示す試みであり、社会的問題を解決することを目指す支援であることが報告された。

報告 2、中村 春菜 会員（早稲田大学大学院）「幼児教育段階における性の多様性教育について―オーストラリアの実践から考える―」報告では、当事者だけでなく全ての子どもに対する多様性教育の促進と理解の底上げが必要であることが報告された。また、教室の環境設定、性別による固定概念へのアプローチ、保護者への関わりなどの様々な方面から性の多様性に関する保育実践が行われていることが明らかにされた。

報告 3、金 侖貞 氏（ご招待・東京都立大学）「多様性時代における日本社会の課題とは―マジョリティはどう変われるのか―」では、日本社会においてマジョリティの観点から考えたときの課題と提起について理論的研究分析を中心に報告がなされた。誰を「マジョリティ」と規定するのかに関しては、インターセクショナリティやアイデンティティの複数性を考慮し、そのカテゴリー化は流動的であることは留意する必要があると指摘された。

協議においては、多様な社会文化的背景を持つ者への取り組みとしてアメリカ、オーストラリア、日本の3カ国における比較とともに、社会的に周縁に置かれた人々の声や視点からの教育活動は重要であることの共通認識があった。さらに、異なる文化を持つ者（マイノリティ）にとって異文化社会に適応することは容易ではなく、受け入れ社会（マジョリティ）にとっても異文化を有する者に対する受け入れ方や姿勢などは喫緊の課題となっていることが確認された。

報告：呉　世蓮（国際交流委員長）

# 公開シンポジウム報告

## 学校施設を基点とした学習社会の「共創」

### ―社会教育としての学校開放の再定義―

【司会】
佐々木 保孝 会員（天理大学）
宮村 裕子 会員（畿央大学）
【報告者】
報告1：荻野 亮吾 会員（日本女子大学）
報告2：橋田 裕 氏（前スポーツ庁地域スポーツ課長／文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当））
報告3：薮内 善史 氏（天理市教育委員会まなび推進課長）

児童生徒数の減少に伴って、毎年、一定数の廃校施設が生じており、地域における有効活用が全国各地で進められている。他方で近年、学校施設には、既存施設の長寿命化や耐震化といったハード面の整備だけでなく、新しい時代の学びを実現するための場として、地域とともに創り上げることが求められている。学校施設の地域における活用は、社会教育のための「学校開放」として長らく行われてきた。近年のこうした「共創」をめざす動きは、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の「地域とともにある学校」づくりをさらに推進するとともに、学校体育施設の有効活用や学校施設と社会教育施設の複合化等、地域における社会教育の展開に対しても様々な可能性を拓くものであり、これまでの学校開放の在り方に対する再考が求められている。そこで、今後の学校施設において学びの「共創」空間がいかにして創り上げられるのか、学校施設を基点とした今後の社会教育における学校開放の在り方について考える機会とした。

第一報告者の荻野亮吾会員からは、学校施設開放や複合化のこれまでの流れを確認したうえで、地域教育経営の視点から、①地域の「範域」をどうとらえるのか、②複合化した施設での学びを誰が形づくるか、③学校と地域の共創のプロセスをどう形づくるか、という三つの論点を提示していただいた。

第二報告者の橋田裕氏からは、学校における部活動改革の状況を示したうえで、全国各地の事例にも触れながら、学校体育施設の有効活用が様々に進められていることの意義や今後の方向性についてご報告いただいた。

第三報告者の薮内善史氏には、天理市が公民館との協働で学校施設を活用して取り組む「みんなの学校プロジェクト」について、「信頼できる地域」との関係において地域活動に取り組まれていることをご紹介いただいた。

後半の質疑応答においては、学校施設を基点として学習社会を「共創」していくことはすでに手段になりつつあることを確認したうえで、フロアからは、学校教員の負担感や意識との関係、複合施設も含めた学校施設の管理や所管の在り方、地域住民との役割分担や地域学校協働活動の継続性等について、多くの質問をいただいた。そして、ハード面とソフト面に関する議論をさらに結びつけることの可能性や、学校に負担が偏らないような運営体制に向けて行政も含めて合意形成を図ることの必要性、地域において「学校は誰のものか」が問われるなかで地域を育むことの意義等を確認してシンポジウムが閉じられた。学校施設という切り口を通じて、学校教育と社会教育の関係を様々な角度から捉え直し、学習社会の共創について考える機会となった。

報告：宮村 裕子（大会実行委員長）

# 理事会報告

## 2023 年度 第 4 回理事会

日　時　2023 年 12 月 16 日（土） 14:00～15:30
会　場　web 会議（「Zoom」使用、事務局（関西大学文学部教育文化専修合同研究室））
出席者　赤尾 勝己・岩﨑 正吾・佐藤 千津・前田 耕司・田中 達也・呉 世蓮・北野 秋男・坂内 夏子・佐久間 邦友・佐藤 晴雄・志々田 まなみ・田中 謙・新関 ヴァッド郁代・上原 直人・平井 貴美代・大谷 杏・荻野 亮吾・吉田 尚史・木田 竜太郎
（役職・地区順、敬称略） 計 19 名
欠席者　玉井 康之・入澤 充・貝ノ瀬 滋・金山 光一・栗原 幸正・柴田 彩千子・白鳥 絢也・冨士原 雅弘・堀井 啓幸・益川 浩一・田中 潤一
（役職・地区順、敬称略） 計 11 名
陪席者　今井 貴代子（事務局幹事）
（五十音順、敬称略） 計 1 名

赤尾 勝己会長（司会）より、開会の挨拶がなされた。
1. 議　題
（1）2023 年度第 3 回理事会議事録確認（田中 潤一事務局長代理 大谷 杏理事・事務局幹事）（資料 02①）
（2）2023 年度総会報告確認（大谷事務局幹事）（資料 02②）

【報告事項】
（1）事務局報告（一般会務報告）（大谷事務局幹事）（資料 03）
（2）第 20 回研究大会報告（田中 達也大会実行委員長）（資料なし）
（3）『学習社会研究』出版社選定チーム報告（赤尾会長）（資料 04①②）
（4）『学習社会研究』第 5 号編集委員会より（梶 輝行委員長代理 佐久間 邦友理事・編集幹事）（資料なし）
（5）学会 web サイトのリニューアルについて（赤尾会長、今
（6）電子化 WG より（田中 謙理事）（資料なし）
（7）その他

【審議事項】
（1）第 21 回研究大会の開催準備について（宮村 裕子大会実行委員長代理 赤尾会長）（資料なし）
（2）入退会者について（大谷事務局幹事）（資料 05）
（3）各種委員会審議
①年報編集委員会（平井 貴美代委員長）（資料 06①②③）
②研究推進委員会（吉田 尚史委員長）（資料 07）
③国際交流委員会（呉 世蓮委員長）（資料 08）
④『学習社会研究』第 6 号編集委員会（田中 達也委員長）（資料 09①②③④⑤）
（4）監査の選出について（赤尾会長）（資料なし）
（5）会報№20 の発行について（木田 竜太郎事務局次長）（資料 10）
（6）2024 年度第 1 回理事会の日程について（赤尾会長）（資料なし）
（7）その他

【配付資料】

| | |
|---|---|
| 資料 01 | 2023 年度第 4 回理事会次第 |
| 資料 02①② | 2023 年度第 3 回理事会議事録（案）、2023 年度総会報告（案） |
| 資料 03 | 一般会務報告 |
| 資料 04①② | 『学習社会研究』出版社選定チーム報告 |
| 資料 05 | 入退会者報告 |
| 資料 06①②③ | 年報編集委員会資料 |
| 資料 07 | 研究推進委員会資料 |
| 資料 08 | 国際交流委員会資料 |
| 資料 09①②③④⑤ | 『学習社会研究』第 6 号編集委員会資料 |
| 資料 10 | 会報№20（案） |
| 回覧資料 | 入会申込書、退会申出書 |

## 2024 年度 第 1 回理事会

日　時　2024 年 4 月 13 日（土） 14:00～16:00
会　場　web 会議（「Zoom」使用）

出席者　赤尾 勝己・岩﨑 正吾・佐藤 千津・前田 耕司・玉井 康之・田中 達也・入澤 充・呉 世蓮・金山 光一・北野 秋男・栗原 幸正・坂内 夏子・佐藤 晴雄・志々田 まなみ・柴田 彩千子・佐久間 邦友・田中 謙・新関 ヴァッド郁代・上原 直人・白鳥 絢也・堀井 啓幸・平井 貴美代・冨士原 雅弘・大谷 杏・荻野 亮吾・吉田 尚史・田中 潤一・木田 竜太郎

（役職・地区順、敬称略） 計 28 名

欠席者　貝ノ瀬 滋・益川 浩一

（役職・地区順、敬称略） 計 2 名

陪席者　今井 貴代子（事務局幹事）・宮村 裕子（第 21 回大会実行委員長）

（五十音順、敬称略） 計 2 名

赤尾 勝己会長（司会）より、開会の挨拶がなされた。

1.議　題

（1）2023 年度第 4 回理事会議事録確認（田中 潤一事務局長）（資料 02）

【報告事項】

（1）事務局報告（一般会務報告）（田中事務局長）（資料 03）

（2）学会 web サイトについて（今井 貴代子事務局幹事）（資料なし）

（3）その他

【審議事項】

（1）第 21 回研究大会の開催準備について（宮村 裕子大会実行委員長）（資料 04）

（2）入退会者について（田中事務局長）（資料 05）

（3）2024 年度活動計画案（赤尾会長）（資料 06）

（4）2023 年度決算案・2024 年度予算案（大谷 杏理事・事務局幹事）（資料 07）

（5）各種委員会審議

①年報編集委員会（平井 貴美代委員長）（資料 08①②）

②研究推進委員会（吉田 尚史委員長）（資料 09）

③国際交流委員会（呉 世蓮委員長）（資料 10）

④学会賞選考委員会（玉井 康之委員長）（資料なし）

⑤『学習社会研究』第６号編集委員会（田中 達也委員長）（資料なし）

⑥電子化 WG（田中 謙理事）（資料 11）

（6）2024 年度第 2 回理事会開催日程について（赤尾会長）（資料なし）

（7）その他

【配付資料】

資料 01　2024 年度第 1 回理事会次第

資料 02　2023 年度第 4 回理事会議事録（案）

資料 03　一般会務報告

資料 04　第 21 回研究大会実行委員会資料

資料 05　入退会者について

資料 06　2024 年度活動計画（案）

資料 07　2023 年度決算（案）・2024 年度予算（案）

資料 08　年報編集委員会資料

資料 09　研究推進委員会資料

資料 10　国際交流委員会資料

資料 11　電子化 WG 資料

回覧資料　入会申込書、退会申出書

## 2024 年度 第 2 回理事会

日　時　2024 年 7 月 13 日（土） 14:00～16:00

会　場　web 会議（「Zoom」使用）

出席者　赤尾 勝己・岩﨑 正吾・佐藤 千津・前田 耕司・田中 達也・入澤 充・呉 世蓮・北野 秋男・栗原 幸正・坂内 夏子・佐久間 邦友・柴田 彩千子・田中 謙・新関 ヴァッド郁代・益川 浩一・上原 直人・白鳥 絢也・平井 貴美代・大谷 杏・吉田 尚史・田中 潤一・木田 竜太郎

（役職・地区順、敬称略） 計 22 名

欠席者　玉井 康之・貝ノ瀬 滋＊・金山 光一・佐藤 晴雄・志々田 まなみ＊・冨士原 雅弘＊・堀井 啓幸＊・荻野 亮吾＊

（＊議決権を委任、役職・地区順、敬称略） 計 8 名

陪席者　今井 貴代子（事務局幹事）・宮村 裕子（第 21 回大会実行委員長）

（五十音順、敬称略） 計 2 名

赤尾 勝己会長（司会）より、開会の挨拶がなされた。

1.議　題

（1）2024 年度第 1 回理事会議事録確認（田中 潤一事務

局長）（資料 02）

【報告事項】
（1）事務局報告（一般会務報告）（田中事務局長）（資料 03）
（2）第 21 回研究大会について（宮村 裕子大会実行委員長）（資料なし）
（3）各種委員会報告
①年報編集委員会（平井 貴美代委員長）（資料 04①②）
②研究推進委員会（吉田 尚史委員長）（資料 05）
③国際交流委員会（呉 世蓮委員長）（資料 06）
④学会賞選考委員会（赤尾会長）（資料 07①②③④⑤）
⑤『学習社会研究』第６号編集委員会（田中 達也委員長）（資料なし）
⑥電子化 WG（田中 謙理事）（資料 08）
（4）その他

【審議事項】
（1）入退会者について（田中事務局長、大谷 杏理事・事務局幹事）（資料 09①②）
（2）2023 年度決算案・2024 年度予算案（大谷事務局幹事）（資料 10①②）
（3）第 22 回研究大会について（赤尾会長）（資料なし）
（4）広報機能強化のための提案について（赤尾会長）（資料なし）
（5）事務局機能強化のための提案について（大谷事務局幹事）（資料 11）
（6）2024 年度第 3 回理事会開催日程について（赤尾会長）（資料なし）
（7）その他

【配付資料】

| | |
|---|---|
| 資料 01 | 2024 年度第 2 回理事会次第 |
| 資料 02 | 2024 年度第 1 回理事会議事録（案） |
| 資料 03 | 一般会務報告 |
| 資料 04①② | 年報編集委員会資料 |
| 資料 05 | 研究推進委員会資料 |
| 資料 06 | 国際交流委員会資料 |
| 資料 07①②③④⑤ | 学会賞選考委員会資料 |
| 資料 08 | 電子化 WG 資料 |
| 資料 09①② | 入退会者一覧・会員資格喪失者等への対応（案） |
| 資料 10①② | 2023 年度決算（案）・2024 年度予算（案） |
| 資料 11 | 事務局業務改善（案）関係資料 |
| 回覧資料 | 入会申込書、退会申出書 |

## 2024 年度 第 3 回理事会

日　時　2024 年 9 月 14 日（土） 11:00～12:30
会　場　畿央大学Ｅ棟 第 3 会議室
出席者　赤尾 勝己・佐藤 千津・前田 耕司・田中 達也・呉 世蓮・金山 光一・北野 秋男・栗原 幸正・佐久間 邦友・田中 謙・白鳥 絢也・平井 貴美代・堀井 啓幸・荻野 亮吾・吉田 尚史・田中 潤一・木田 竜太郎
（役職・地区順、敬称略） 計 17 名
欠席者　岩﨑 正吾＊・玉井 康之＊・入澤 充・貝ノ瀬 滋・坂内 夏子・佐藤 晴雄＊・志々田 まなみ＊・柴田 彩千子・新関 ヴァッド郁代＊・上原 直人＊・冨士原 雅弘＊・益川 浩一＊・大谷 杏＊
（＊議決権を委任、役職・地区順、敬称略） 計 13 名
陪席者　今井 貴代子（事務局幹事）・宮村 裕子（第 21 回大会実行委員長）
（五十音順、敬称略） 計 2 名

赤尾 勝己会長（司会）より、開会の挨拶がなされた。
1.議　題
（1）2024 年度第２回理事会議事録（案）確認（赤尾会長）（資料 02）

【報告事項】
（1）事務局報告（一般会務報告）（田中 潤一事務局長）（資料 03）
（2）第 21 回研究大会について（宮村 裕子大会実行委員長）（資料なし）
（3）各種委員会報告
①年報編集委員会（平井 貴美代委員長）（資料 04①②③）
②研究推進委員会（吉田 尚史委員長）（資料 05）
③国際交流委員会（呉 世蓮委員長）（資料 06）

④学会賞選考委員会（赤尾会長）（資料なし）
⑤『学習社会研究』第６号編集委員会（田中　達也委員長）（資料 07）
⑥電子化 WG（田中　謙理事）（資料 08）
（4）その他

【審議事項】
（1）入退会者について（田中事務局長）（資料 09）
（2）2023 年度会計報告・会計監査（田中事務局長）（資料 10①②）
（3）2024 年度予算（案）（田中事務局長）（資料 11）
（4）2024 年度第 4 回理事会開催日程について（赤尾会長）（資料なし）
（5）その他

【配付資料】

| | |
|---|---|
| 資料 01 | 2024 年度第 3 回理事会次第 |
| 資料 02 | 2024 年度第 2 回理事会議事録（案） |
| 資料 03 | 一般会務報告 |
| 資料 04①②③ | 年報編集委員会資料 |
| 資料 05 | 研究推進委員会資料 |
| 資料 06 | 国際交流委員会資料 |
| 資料 07 | 『学習社会研究』第 6 号編集委員会資料 |
| 資料 08 | 電子化 WG 資料 |
| 資料 09 | 入退会者一覧 |
| 資料 10①② | 2023 年度会計報告・会計監査 |
| 資料 11 | 2024 年度予算（案） |
| 回覧資料 | 入会申込書、退会申出書 |

# 第 21 回総会報告

日 時 2024 年 9 月 14 日（土） 14:45～15:45
会 場 畿央大学 冬木記念ホール

1. 会長挨拶（赤尾 勝己会長）
　赤尾会長より、開催の挨拶が行われた。

2. 大会校挨拶（前平 泰志様）
　大会校を代表して、畿央大学教育学部 前平 泰志学部長より、御挨拶を賜った。

3. 議長選出
　出相 泰裕会員が議長に選出された。

4. 報告事項
（1）事務局報告（一般会務報告）（田中 潤一事務局長）（資料 02）
　田中事務局長より、資料 02 に基づき、一般会員 226 名、学生会員 29 名、計 255 名であること、理事会等開催状況、寄贈図書について報告がなされた。
（2）第 21 回研究大会実行委員会報告（宮村 裕子委員長）（資料なし）
　宮村大会実行委員長より、一般会員 70 名、学生会員 8 名、臨時会員 5 名の計 83 名の参加があったこと、9 月 15 日の予定等について報告がなされた。
（3）各種委員会報告
①年報編集委員会（平井 貴美代委員長）（資料 03①②③）
　平井委員長より、資料 03①②に基づき、2024 年度年報編集委員会の体制、予算および執行状況、2023 年度（19 号）発行額実績および 2024 年度（20 号）の印刷費確定額・郵送費見積額、2024 年度（20 号）編集業務の進捗状況について報告がなされた。
　また、資料 03③に基づき、編集委員会運営規程の一部改正案が示され、了承された。
②研究推進委員会（吉田 尚史委員長）（資料 04）
　吉田委員長より、資料 04 に基づき、研究推進委員会活動、課題研究Ⅰの概要について報告がなされた。
③国際交流委員会（呉 世蓮委員長）（資料 05）
　呉委員長より、資料 05 に基づき、国際交流委員会活動、課題研究Ⅱの概要について報告がなされた。
④学会賞選考委員会（赤尾会長）（資料 06）
　玉井 康之委員長の代理として赤尾会長より、資料 06 に基づき、2024 年度学会賞選考委員会の活動計画等について報告がなされた。
⑤『学習社会研究』第 6 号編集委員会（田中 達也委員長）（資料 07①②③）
　田中委員長より、資料 07③に基づき、『学習社会研究』第 6 号編集業務の進捗状況について報告がなされた。また、資料 07①②に基づき、『学習社会研究』投稿等要領および編集規程の一部改正案が示され、了承された。
⑥電子化 WG（田中 謙理事）（資料 08）
　田中担当理事より、資料 08 に基づき、電子化 WG の作業状況等について報告がなされた。
（4）その他
　特になし。

5. 審議事項
（1）2023 年度決算案（田中事務局長）（資料 09）
　田中事務局長より、資料 09 に基づき、2023 年度決算案の説明がなされ、承認された。
（2）2023 年度会計監査（大野 順子監査、若槻 健監査）（資料 10）
　大野監査より、資料 10 に基づき、2023 年度会計監査結果の説明がなされ、承認された。
（3）2024 年度活動計画案（田中事務局長）（資料 11）
　田中事務局長より、資料 11 に基づき、2024 年度活動計画案の説明がなされ、承認された。
（4）2024 年度予算案（田中事務局長）（資料 11）
　田中事務局長より、資料 11 に基づき、2024 年度予算案の説明がなされ、承認された。
（5）第 22 回研究大会会場校・開催日程について（赤尾会長）（資料なし）
　赤尾会長より、第 22 回大会会場校を早稲田大学とし、坂内 夏子理事に同大会実行委員長への就任を依頼したいこと、開催日を 2025 年 9 月 6 日(土)・7 日(日)としたいことが説明され、承認された。なお、坂内理事は体調不良で欠席された。

6. その他
　特になし。

7. 議長解任
　出相議長を解任した。

# お知らせ

**1. 新入会員**

2023 年 12 月から 2024 年 9 月まで、19 名の方々が入会されました。

**2. 第 22 回研究大会の開催**

第 22 回研究大会は早稲田大学（大会実行委員長 坂内 夏子会員）を開催校とする予定です。開催日程は、2025 年 9 月 6 日(土)・7 日(日)の予定です。変更が生じた場合は、学会 web サイトにて改めてお知らせいたします。

**3. 会員情報の更新**

ご異動やご転居などにより会員情報に変更が生じましたら、お早めに事務局までお知らせください。

**4. 寄贈図書**（2023 年 12 月～2024 年 9 月受付分）

(1)全国社会教育職員養成研究連絡協議会（2023）『社会教育職員研究』30.

(2)ベンズ著、似内 遼一監訳、荻野 亮吾、岩崎 久美子、吉田敦也訳（2023）『ファシリテーター・ハンドブック』明石書店.

(3)日本公民館学会（2023）『日本公民館学会年報』20.

(4)出相 泰裕編（2023）『学び直しとリカレント教育―大学開放の新しい展開』ミネルヴァ書房.

(5)岐阜大学地域協学センター（2024）『地域志向学研究 vol.8 特集：大学と地域創生』.

(6)川前あゆみ・玉井康之編著（2024）『未来の教育を創造するへき地・小規模校の教育力』学事出版.

(7)池谷美衣子・田島祥・ニノ宮リムさち（2024）『人生を拓く・社会を創る―シティズンシップの学び』学文社.

(8)ニノ宮リムさち・高梨宏子（2024）『地域から学ぶ・世界を創る―パブリック・アチーブメントと持続可能な未来』学文社.

(9)日本社会教育学会編（2024）『現代社会教育学辞典』東洋館出版社.

(10)法政大学資格課程（2024）『法政大学資格課程年報 Vol.14』.

# 年報第 21 号の自由投稿論文の募集

年報編集委員会

会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。さて、年報第 21 号の自由研究論文の投稿につきまして、以下の要領で募集しますので奮ってご投稿ください。なお、原稿の提出要領の詳細や編集規程に関しましては、学会のホームページをご覧ください。

1. 投稿論文テーマ

論文のテーマは日本学習社会学会の活動の趣旨に沿うものとする。

2. 投稿者資格

(1) 本学会会員で前年度までの会費を納めている者

(2) 上記以外のもので編集委員会が特に委嘱または承認した者

3. 投稿論文資格

投稿論文は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその他の配布資料の場合はこの限りではない。

4. 原稿規格

(1) 原稿の量

a) 研究論文は図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて 16,700 字、かつ年報の 9 頁分以内（ただし表題と執筆者名の分を 9 行あける）とする。

b) 研究ノートは図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて 13,000 字以内、かつ年報の 7 頁分以内（ただし表題と執筆者名の分を 9 行あける）とする。

c) 実践報告は図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて 8,000 字以内、かつ年報の 4.5 頁分以内（ただし表題と執筆者名の分を 9 行あける）とする。

d) ワープロ原稿の場合は横書きで印字する（図・表等の場合はこの限りではない）。原稿用紙の場合は A4 版 400 字詰原稿用紙（横書き）を用いる。いずれの場合も字数制限を厳守すること。ただし、年報における見出し・小見出し等は 2 行取りとする。

e) 年報編集委員会が特に枚数を指定した原稿は上記を適用しないものとする。

(2) 図・表・注等の規格

a) 図・表はワープロ原稿の場合には論文中に挿入または貼付し、原稿用紙の場合には原稿中に挿入せず別の用紙に貼付し、その印刷位置・サイズをあらかじめ原稿に表示しておくものとする。

b) 注・引用文献・参考文献等は原稿末尾に一括して掲げるものとする。

c) 注の番号形態は「(1) (2)…」とする。

(3) 審査の公正を期すための留意事項

a) 氏名・所属機関名は原稿には記入せず、別紙（5. 提出原稿・書類の④）に記載する。

b) 本文および注において「拙稿」「拙著」等の投稿者名が判明するような記述を行わない。

5. 提出原稿・書類

投稿にあたっては以下の原稿及び書類を提出すること。なお、提出された原稿及び書類は原則として返却しない。投稿者は論文原稿のコピーを必ず保存すること。

① 原稿1部

② 和文題目及び約 800 字の和文要旨1部

③ ②の冒頭に、日本語のキーワード 5 語以内を記入する。

④ 下記の事項を記載した別紙1部

・執筆者氏名（日本語及び英語表記）

・所属機関名（日本語及び英語表記）

・研究論文、研究ノート、実践報告のいずれかを明示し、その題目（和文及び英文）

・連絡先等（郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス）

⑤ ①～④の Word 形式の電子ファイルが入った電子媒体（CD-R、USB メモリー等）

⑥ 研究論文・研究ノートの場合、掲載が決定されたならば、直ちに英文題目及び 800 語～1,000 語の英文要旨 3 部を提出する。その際、冒頭に英語のキーワード 5 語以内を記入する。

6. 提出期限及び提出先

原稿及び書類は4月 20 日（当日消印有効）までに年報編集委員会事務局宛に提出するものとする。

7. 校正

(1) 筆者校正は原則として初校のみとする。

(2) 校正は最小限の字句の添削または変更にとどめる。

8. その他

(1) 執筆に関わる事項で不明の点は年報編集委員会事務局に問い合わせる。

(2) 応募原稿の採否は、日本学習社会学会年報編集規程にもとづき年報編集委員会が決定する。

日本学習社会学会 年報編集委員会事務局

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2　宇都宮大学地域デザイン科学部
若園雄志郎研究室　気付

# 日本学習社会学会　学会賞（学術研究賞）の募集

学会賞選考委員会

<学会賞の趣旨>

日本学習社会学会では、学習社会学のさらなる発展のため、日本学習社会学会　学会賞（学術研究賞）を制定し、優れた研究業績の表彰を行います。学会賞は学習社会学の発展に寄与する顕著な研究業績に授与されます。賞の授与は、会員１人につき、著書と論文のそれぞれ１回を限度とします。会員の皆様からの積極的なご応募をお待ちしています。

<選考と表彰>

賞の選考は原則３年間を単位とし、選考委員会によって選考されます。著書と論文の受賞点数は、３年間で合わせて３点程度とします。受賞作品は、2025 年９月開催（予定）の日本学習社会学会年次研究大会（総会）で表彰します。

<応募要項>

１．対象作品：2023 年１月１日から 2024 年 12 月 31 日までに刊行された日本学習社会学会紀要『日本学習社会学会年報』掲載論文及び国内外で刊行された本学会員の著書（共著、編著を含む）

2．応募要領：応募は会員による自薦・他薦によるものとする。自薦・他薦ともに「日本学習社会学会　学会賞応募票」に必要事項を記入し、当該著書３部または論文３部とともに提出すること。会員が自薦・他薦できる研究業績は、会員１人当たり合わせて１点とする。

3．締め切り：2025 年２月 10 日（必着）

4．送付先・問い合せ先：日本学習社会学会事務局

日本学習社会学会 事務局　※お問い合わせはメールにてお願いいたします。
Mail：slearningsociety@gmail.com
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 関西大学文学部
田中潤一研究室　気付